「プログラミング実習 II」講義案内（2025 年度春学期）

（受講対象者：<u>情報工学課程 2 年生</u>）

■ 本実習の目的など

・「目的」「目標」「概要」は，本実習のシラバスを参照して下さい.

■ 実習の進め方（シラバス「授業方法」を詳しく記載しています）

・下記スケジュールで教科書に沿って学習し，別途指定された課題に取り組み，レポート提出を行う.

・各回の課題は2種類があります.

- ■ 当日課題:　課題は授業日に公表され，当日の所定の時刻までに提出する.
- ■ 宿題課題：原則として次回の授業日までに提出する.

■ スケジュール（適宜，変更される可能性があります）

第 1 週:	ガイダンス(BYOD の説明を含む)，プログラム作成(キックオフ第 1 章)，変数と式（キックオフ 第 2 章，C プロ第 3 章）	
第 2 週:	教科書第 4 章「制御の流れ」（1）	（キックオフ 第 4/5 章，C プロ第 4 章）
第 3 週:	教科書第 4 章「制御の流れ」（2）	（キックオフ 第 6 章，C プロ第 4 章）
第 4 週:	教科書第 5 章「関数」（1）	（キックオフ 第 3 章，C プロ第 5 章）
第 5 週:	教科書第 5 章「関数」（2）	（キックオフ 第 7 章，C プロ第 5 章）
第 6 週:	教科書第 6 章「配列」（1）	（キックオフ 第 8 章，C プロ第 6 章）
第 7 週:	教科書第 6 章「配列」（2）	（キックオフ 第 8 章，C プロ第 6 章）
第 8 週:	教科書第 7 章「文字列」	（キックオフ 第 9 章，C プロ第 7 章）
第 9 週:	教科書第 8 章「ポインタ」	（キックオフ 第 9 章，C プロ第 8 章）
第 10 週:	第1回中間試験および復習	
第 11 週:	教科書第 9 章「構造体」	（キックオフ 第 10 章，C プロ第 9 章）
第 12 週:	教科書第 10 章「ファイル」，乱数	（キックオフ 第 11 章，C プロ第 10 章）
第 13 週:	総合演習	（キックオフ 第 12 章など）
第 14 週:	第2回中間試験および復習	

■ 教科書

文法書（「キックオフ」） 関西学院大学 情報・機械系準備実験室，「キックオフ C 言語」，2024 年度版第 2 刷 （2025） 【授業にて配布】

演習書（「C プロ」） 内田智史 編著「C 言語によるプログラミング 基礎編 第3版」(2020 年出版) オーム社 ，ISBN 978-4-274-22606-9，**2,310 円（税込）**

（注） 演習書は必ず事前に購入し，第１回目の演習から持参すること.

■ 講義ホームページ

・ レポートの提出や講義資料の配布等は下記の URL を通じて行う.

https://cs.kwansei.ac.jp/prog2/

■ 成績評価方法・基準 （予定）

・「プログラミング実習 II」は実習科目であり，実習に出席すること自体が重要です.

・ 当日課題，宿題課題をすべて提出することが単位取得のための必要条件となります.
提出遅れは減点の可能性がありますが，期限よりも完成版の提出を優先して下さい.

・ 提出物に不備がある場合は再提出を指示されることがあります. 所定の提出期限までに正しいプログラムが再提出されなければ減点（締切 1 回あたり 5 点，計 20 点）されます.

・ プログラム力（と成績）の向上のため，オプション課題（「*」 印つき）への取り組みを推奨します.

・ 以下の試験を実施します （基本的な問題を出題）.

中間試験（授業時間内，2 回）： 実技試験（PC 上でプログラムを作成）を実施する

第 1 回中間試験 30%， 第 2 回中間試験 45%

期末試験(定期試験期間)： 筆記試験を実施する 25%

・ 評価法

- 中間試験（2 回）・期末試験の採点結果を最終評価の根拠として使用します.
- 欠席・遅刻に対して，1 回当たり最大 5 点を減点します.
- 課題の提出遅れに対して，最大 20 点が減点されることがあります.
- 以上の点数を基に「合格」または「不合格」が決定されます.
- 「合格」の場合は，オプション課題および応用課題の提出に対して適宜加点を行います.

・ 本実習は C 言語によるプログラミングを取得する目的で実施しているため，**他人のプログラムのコピーは禁止とします**. 発覚した場合，**コピーした者もコピーさせた者も本演習の成績評価を 0 点（不可）とします**.

■ ルーブリック

・ 成績評価に当たっては，3 項目に対して，おおよそ 4 段階で評価します．

以下は項目「A. よい， B. 普通， C. ボーダーライン， D. 不合格」の目安です．

- 文法：
  - A. 構造体やポインタを使いこなせる
  - B. 関数および配列を使いこなせる
  - C. 関数および配列を使える
  - D. 関数および配列を使えない

- プログラム作成：
  - A: プログラムを設計し，記述できる
  - B. 書き方の方針が示されればプログラムを書ける
  - C. 書き方の詳細が示されればプログラムを書ける
  - D. 書き方の詳細を示されてもプログラムを書けない

- プログラム規模：
  - A. 数百行のプログラムを書ける
  - B. 数百行のプログラムを読める，100 行程度のプログラムを書ける
  - C. 100 行程度のプログラムを読める，プログラムの穴埋めができる
  - D. 100 行ほどのプログラムの読解及び穴埋めができない

■ その他

・ C 言語でのプログラム作成に Visual Studio Code または サクラエディタ，および Cygwin を使用します．
個人の PC を持ち込んで課題に取り組むことも推奨します．インストール等については実習のホームページを参照してください．

・ 各クラスで担当教員と 4 名程度の TA が指導を行いますが，自力でプログラムを作成することが重要であるため，答えを教えることはありません．本実習で問題が解けない場合，多くは**教科書を読んでいない**ことが原因となっているため，質問をする前に教科書を必ず読み込んで下さい．